

中国語 3 級 T L T の使い方（文法編）

はじめに

『中国語3級保証』TLTソフト(米国特許取得No.5888071号)の第3回以降は、中国語検定試験3級に合格するために必要な文法に習熟できるように開発されたソフトです。

当ソフトはTOEIC受験用教材のシステムソフトとして高い信頼と実績を築いており、TLTソフトでの中国語ソフトとして長く開発が待たれていたものです。

第1課～第44課の44課で構成され、学習メニューの1回分には、平均して5課分の学習が入っています。

新しい文法の知識はもとより、新出単語や文型も習得することができ、中国語の総合的な知識が身に付きます。

単語・熟語に関する問題、表現に関する問題、ピンインに関する問題、ヒアリングに関する問題、中国語の日本語訳に関する問題等を、完全に覚えるまでトレーニングします。

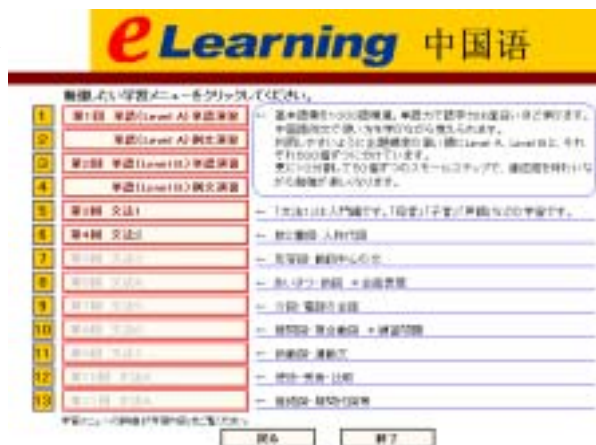
学習しやすいように<「説明」 「問題」>を数回繰り返して、小刻みに達成感を味わいながら、着実に知識を積み上げていくことができ、この手の教材にありがちな、途中での挫折という心配も無用です。

超速習を可能にするワンタッチ入力です。中国語の語義を日本語で答える場合、原則として「最初の1文字が合っていれば正解と判定(ワンタッチ判定)」して、すぐ次の問題に移行しますので、学習をスピーディーに進められます。

*「おじ」(「おば」と区別して)や「こんに」(「こんにちは」を「こんばんは」と区別して)など2桁以上の判定の場合もあります。

学習メニューを選択

ログイン(User IDとパスワードを入力しスタートボタンを押す)して学習したい学習メニューをクリックします。



学習の開始と終了

< 開始 >

学習すべき箇所が■色で表示されますので、クリックして学習に入ります。

< 終了 >

学習中に右下の「中断 (ESC)」ボタンを押すとこの画面に戻ります。止めるなら [終了] をクリックします。次回、同じパソコン、同じIDで使用すると“ 続き ”が学習できます。



学習の方法

学習はまず、初回から始めます。(どの課からも進められますが左から順に進めることをお奨めします)

初回が終了すると復習1へ進み、初回で×になった問題を復習します。

復習1が終了すると復習2へと進み、復習1で×になった問題を復習します。

復習2が終了するとその演習の上に合格表示がでて、総チェックが選択可能になります。

総チェックは何度でも学習可能です。

すべての演習に合格表示が出ると画面下に合格番号が表示されます。



【TESTING】

文法事項は<説明> <問題>の繰り返しで学習を進めます。問題に入る前に説明をしっかり読んでください。

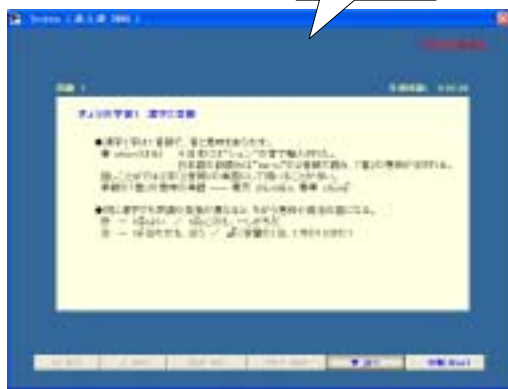
説明



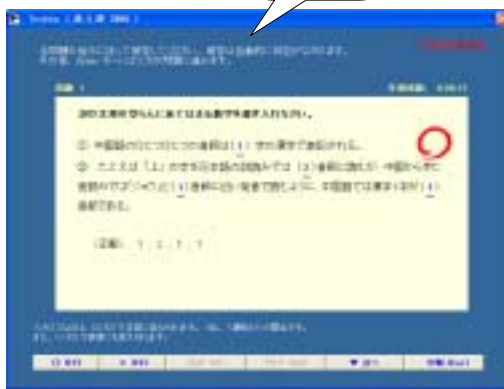
問題



説明



問題



多くの場合は1桁判定ですが「おじ」（「おば」と区別して）「こんに」（「こんにちは」を「こんばんは」と区別して）など2桁以上の判定の場合もあります。

・不正解が6問たまるとTRAININGに入ります。

ローマ字の入力間違えで×になったものを に変えます。（ただし6回まで）

偶然 ×になった判定を×に変えます。（TRAININGの対象になります）

音声を繰り返し聞くことができます。

正誤判定の前に、入力した文字を消去することができます。

正誤判定の後、 キーを押して次の問題に進みます。

キーを押すか、 を押すことで「学習開始」画面に戻ります。

【TRAINING】

問題形式は TESTINGと同じ形式です。対象問題を3度連続正解すると、その時点での TRAININGは終了します。

進捗表

学習開始画面で

進捗表画面

をクリックします。

赤字のボタンは「学習中」あるいは「学習可能」なステップを表します。黒字は終了したステップです。

学習状況はそこでの「**正解数 / 回答数 / 問題数**」で表示されます。

ボタンをクリックすると更に詳細な情報が見られます。

The screenshot shows the 'eLearning 中国語' interface. On the left, there are buttons for '学習状況一覧', '学習開始画面', and '学習管理画面'. The main area contains a table with columns: '区分(単語A)', '種類', '解答1', '解答2', and '進捗率'. The table lists 10 lessons (演習1 to 演習10). Lesson 1 is highlighted in red, indicating it is currently active or available. Below the table, there are buttons for '戻る', '終了', and '進む'. The user ID is 'ユーザー: 500' and the start date is '学習開始日: 2004-01-29'.

The screenshot shows a detailed window titled '演習3 (練習1)'. It features a progress bar with 25% completed (blue) and 75% remaining (purple). Below the bar, there is a list of question types and counts:

- ① Testingで合格: 2 問
- ② Trainingで合格: 6 問
- ③ Training(学習中): 0 問
- ④ 未学習: 0 問
- ⑤ 問題数: 8 問

Additional information includes '学習開始日: 2004/11/12', '演習 3 学習時間: 00:01:37', and '総学習時間: 00:01:37'. A '戻る' button is located at the bottom right.

ローマ字変換表

入力は、カーソル選択及び数字以外はすべてローマ字入力です。

「ん」はnn, 「つ」はtsu, tu で入力。促音の「っ」は次にくる子音を2度入力, 「さっき」 sakki 。単独で「っ」を入力するときは n 以外の子音を2度 tt とか kk というように入力。長音「ー」は「ーほ・=£」のキーを押します。

【ローマ字変換規則】ソフトが自動的に「かな」に変換します。

あ	a	い	i	う	u	え	e	お	o
あ	la	い	li	う	lu	え	le	お	lo
か	ka	き	ki	く	ku	け	ke	こ	ko
か	sa	し	si	す	su	せ	se	そ	so
さ	ta	ち	ti	つ	tu	て	te	と	to
さ	na	に	ni	ぬ	nu	ね	ne	の	no
た	ha	ひ	hi	ふ	hu	へ	he	ほ	ho
た	ma	み	mi	む	mu	め	me	も	mo
な	ya	い	yi	ゆ	yu	い	ye	よ	yo
は	ra	り	ri	る	ru	れ	re	ろ	ro
ま	wa	う	wi	る	wu	う	we	を	wo
や	ga	ぎ	gi	く	gu	げ	ge	ご	go
ら	za	じ	ji	ず	zu	ぜ	ze	ぞ	zo
わ	ja	じ	ji	じ	ju	じ	je	じ	jo
が	da	ぢ	di	づ	du	で	de	ど	do
ざ	ba	び	bi	ぶ	bu	べ	be	ぼ	bo
じ	pa	ぴ	pi	ふ	pu	ぺ	pe	ぽ	po
じ	fa	ふ	fi	ふう	fu	ふう	fe	ふう	fo
だ	va	う	vi	う	vu	う	ve	う	vo
ば	sha			し	shu	し	she	し	sho
ば	cha			ち	chu	ち	che	ち	cho
あ	tha	て	thi	て	thu	て	the	て	tho
う	dha	で	dhi	で	dhu	で	dhe	で	dho
あ	kya	き	kyi	き	kyu	き	kye	き	kyo
あ	sya	し	syi	し	syu	し	sye	し	syo
あ	tya	ち	tyi	ち	tyu	ち	tye	ち	tyo
あ	cya	ち	cyi	ち	cyu	ち	cye	ち	cyo
あ	nya	に	nyi	に	nyu	に	nye	に	nyo
あ	hya	ひ	hyi	ひ	hyu	ひ	hye	ひ	hyo
あ	fya	ふ	fyi	ふ	fyu	ふ	fye	ふ	fyo
あ	mya	み	myi	み	myu	み	mye	み	myo
あ	rya	り	ryi	り	ryu	り	rye	り	ryo
あ	gya	ぎ	gyi	ぎ	gyu	ぎ	gye	ぎ	gyo
あ	zya	じ	zyi	じ	zyu	じ	zye	じ	zyo
あ	jya	じ	jyi	じ	jyu	じ	jye	じ	jyo
あ	dya	ぢ	dyi	ぢ	dyu	ぢ	dye	ぢ	dyo
あ	bya	び	byi	び	byu	び	bye	び	byo
あ	pya	ぴ	pyi	ぴ	pyu	ぴ	pye	ぴ	pyo

音声聞こえない(あるいは音量が小さい)場合の確認点

(1) デスクトップのタスクバー右側(通例右下)にある「スピーカ」のアイコンをダブルクリックし、「ボリュームコントロール」の画面を出します。



(2) その「ボリュームコントロール」の中にさらに「ボリュームコントロール」というコントローラがあり、それとは別に「WAVE」というコントローラがありますが、これらの設定が(どちらか片方でも)低くなっていれば、上げてやります。

(3) またコントローラの下に「(全)ミュート」(=消音)という小窓がありますが、ここにチェック印()が入っていると、たとえコントローラの設定が最大になっていても、完全に消音されてしまいますので、その小窓をクリックしてチェック印(×)を消してやります。

(4) 「ボリュームコントロール」の右上の [x] をクリックして閉じたら、同じ「スピーカ」のアイコンを、今度はシングルクリックし、「音量」という画面を出します。



(5) そのコントローラの設定と、ミュートの状況とを確認し、不具合があれば直します。

「スタート」 「コントロールパネル」 「サウンドとオーディオデバイス」を順にクリックし、スピーカの設定を変更する で調整することもできます。

(6) 最後に、画面上のコントローラでの設定ではなく、実際のツマミやキーによって、最

最終的に音量を調節する操作が残っています。これはコンピュータの機種によって異なりますので、コンピュータの使用説明書をご覧くださいこととなりますが、大まかに言ってに次の3つパターンがあります。

- (a) スピーカ内臓のコンピュータの場合 その1
音量調節ツマミがどこかに付いている
- (b) スピーカ内臓のコンピュータの場合 その2...特にノートパソコンの場合
Fnキーと他のキー(例えばF5[]とF6[])を押して音量を上げ下げする
- (c) スピーカ外付けのコンピュータの場合
スピーカに音量調節ツマミが付いている

なお、ヘッドフォンを使用する場合は、ヘッドフォンの電源や音量調節ツマミも確認してください。

また、コンピュータによっては(音楽)CDを聴くための、専用の音量調節ツマミとヘッドフォン端子が付いている場合もありますが、それは関係ありませんので、ご注意ください。

動作環境

Windows® X P (日本語版) がインストールされたパソコン。

必要メモリーは1 2 8 MB以上。

ハードディスクに1 G Bの空き容量があること。

(Windows® 9 8、Me、2 0 0 0等での動作の保証はいたしません)

* Windows® は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

* * その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

学習画面の右側の文字が切れる場合の確認

「スタート」(「設定」) 「コントロールパネル」 「画面」 「設定」 「詳細設定」 「通常のサイズ」の順に選びます。

「画面の領域」が1024×768ピクセル以上に設定されているか。

800×600の場合には1024×768以上に変更して下さい。